

叙勲の栄に輝く 松崎美房氏

資料室

長年 地質調査所の資料業務にたずさわった 松崎さんに 昭和47年「春の叙勲」にあたって 勲六等単光旭日章が授与された。松崎さんは 伝達式に出席のため 去る5月10日 79才とは思われないほど元気な姿で 地質調査所東京分室に來られ 関係者に挨拶された。翌11日 旧知の仲間たちは短かい時間ではあったが 松崎さんを囲んで この度の栄与をたたえつつ懐旧談に花を咲かせ 時のたつのも忘れるほどであった。一同は松崎さんが公害のない郷里で鍛えられた壮健さと 閑居されていても なお盛んな知識欲に感心し 晴耕雨読の田園生活を心からうらやましく思い また生活態度についても いくた教えられるものがあった。松崎さんが奥さんともども ますます ご壮健で過されることを祈りつつ お別れをした。

この機会に 松崎さんの資料業務に打ち込まれた40有余年の業績を回顧し 地質関連資料の重要性を あらためて認識することも意義のあることであろう。

松崎さんが地質調査所に入所（大正9年10月11日）当時の資料部門は「文庫」と称し その活動がようやく本格化しようとする時にあたっており 松崎さんは 持ち



地質調査所
元資料課図書
係長
松崎美房氏

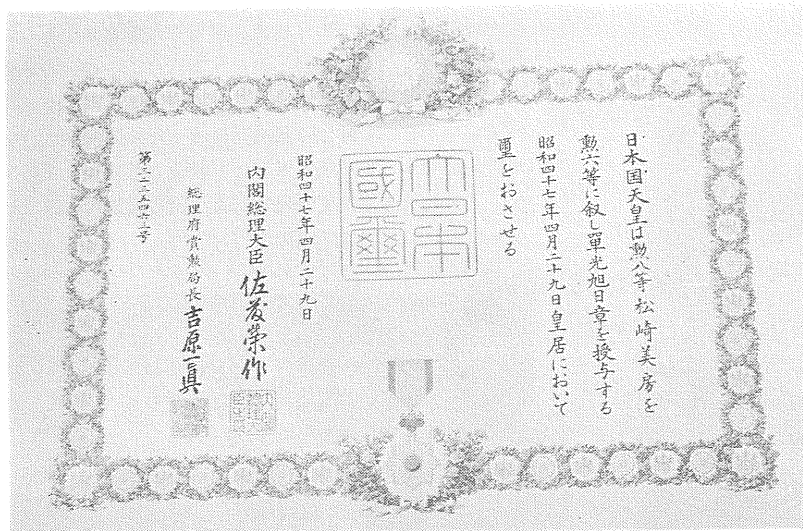
前のタフネス振りを 遺憾なく発揮して 資料の収集・整理・保管などの業務要領をマスターし 研究者の利用に即応できる体制づくりに 少なからず寄与された。

関東大震災（1923）のとき 約6万部の図書を灰燼に帰した苦い経験から 第二次大戦末期 戦況が悪化して 図書・資料の保全策を講じた際に 松崎さんは研究部の疎開先への蔵書の分散発送 あるいは 東大理学部をはじめ 首都近辺地域の関係職員宅への蔵書の寄託など 気骨の折れる仕事に 身を挺して黙々と専念し 戦災による被害を最少限に止めることにつくした。にもかかわらず 運搬の途中で荷車が積んだまま あるいは一部の疎開先で 焼失してしまったものがあったことを 今でも「もっと早い時期に 適切な地点に分散疎開していたら」と悔んでおられた。

また戦後は まだ水道も電灯もない 川崎市溝の口の 庁舎に運んであった 図書・資料の整理・保管につとめるとともに 被災した 図書・資料を補うため 交換先リストの復原などに 若い職員の先頭に立って 東奔西走し とくに再入手困難な 古い地質図幅類の入手に情熱を傾け 今日地質調査所資料部門の再建の基礎をつくったのである。なお松崎さんは 去る昭和40年6月退職 第2の人生を 下記の郷里で送られている。

現住所
福島県田村郡船引町大字
鹿又字樋ノ口30
☎(02478) 2-7505

松崎美房



松崎氏に授与された勲記